



多文化な社会へ 税金が支える共生

大田区立馬込東中学校 三年 欧 彙嘉

私は5年生の時に日本の小学校に転校をしました。当時の私はひらがなやカタカナさえ読めなかった外国人でした。初めて行く日本の学校だったため、とても緊張し、言語のことでも心配をしました。幸いなことに学校内にも、家から少し離れた会館にも日本語教室と呼ばれる学び場があり、私のような日本語が上手に話せないために、困っている人はみんなそこでは安心して日本語を勉強することができるのです。

日本語教室では、ボランティアの先生たちが外国人のために日常生活で使う日本語を教えています。私は日本語教室で勉強をしたおかげで、日本語を使って学校の友達と挨拶ができるようになったり、毎日少しずつ日本語が上達していくことが実感できました。当時、私はこの日本語教室が当たり前にあるわけではないと思いました。私達が払っている税金の一部がこうした日本語教室を支えているのです。もし税金がなく、日本語教室もないことになっていたら、きっと私みたいな外国人はみんな自分の日常が心配で、普段の生活ももっと不便になると思います。税金は私達が気付かないうちに、私達の勉強を応援していることになりました。税金があるからこそ、人々の生活がもっと幸せなものになれると分

かりました。

しかし、税金の使い道にはいつも議論があります。「外国人のために税金を使うよりも、まず日本人のために使うべきだ」という意見もあります。このことはいくら解釈をしても難しい問題ですが、もし日本語が話せない、病気の時に症状を詳しく説明できなかったり、日本の法律やルール、マナーなどを理解できなかったりして、問題が起ることがあります。日本語教育は共生社会の安定性を保つ重要な役割になっています。日本語ができる外国人は、より良い仕事に就くことができ、より多くの税金を納めるようになります。また、地域のイベントに参加したり、お互いに交流することでより文化が豊かな国になります。これは日本の経済にとっても、社会全体にとってもプラスの面であると私は考えます。

税金は私達の生活を支える大切なお金です。学校、病院、図書館、公園などみんなが使う公共施設はすべて税金で運営されています。税金の使い道を考える時、最も重要なことは人々の幸せに繋がるかどうかです。日本語教室だけでなく、例えば高齢者介護サービスに税金を使うことで、お年寄りが安心する暮らしができます。まだ未成年の私達は消費税という形で税を納め、この税金がみんなの幸せのために使われているかをこれから関心を持ち続けたいと思います。